

# 研修ニュース

〒518-0814

三重県伊賀市上友生 785 番地

Tel&Fax 0595-21-8839 E-mail [iga-ken@iga.ed.jp](mailto:iga-ken@iga.ed.jp)

## 研修講座 B-15 食物アレルギーに関する研修 「学校生活におけるアレルギー疾患の管理」

















【講師】 国立病院機構三重病院 長尾 みづほ さん

1月16日(月)、講師に国立病院機構三重病院 長尾みづほさんをお迎えし、研修講座「食物アレルギーに関する研修」を実施しました。講義では、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、喘息の症状とその対応等について具体的にご指導いただきました。

はじめに食物アレルギーによって引き起こされる症状には軽症、中等症、重症と判断できる症状があり、中でも特に重症やアナフィラキシーと判断できる場合にはアドレナリン自己注射薬（エピペン）を適切に使用することが大切であることを学びました。また、その判断ができるように使用すべき時の症状の一覧表をいつでも見られるようにしておくという良いことを教えていただきました。

（以下がアドレナリン自己注射薬を使用すべき症状の一覧）

### アドレナリン自己注射薬を使用すべき症状

消化器 の症状						
	繰り返し吐き続ける	持続する強い（がまんできない）腹痛				
呼吸器 の症状						
	のどや咽が腫めつけられる	人が見えるような咳	ゼーゼーする呼吸	声がかすめる	持続する強い息遣い	鼻がにくい
全身 の症状						
	唇や爪が青白い	尿や便が黒らげ	ぐったりしている	肌が腫れにくい不規則		意識がもうろうとしている

日本小児アレルギー学会 食物アレルギーハンドブックの1冊を参考に作成

これらの症状がある場合は、迷わずに打つ！

誰もがいつでも見られるようにする！

次にアトピー性皮膚炎と喘息発作への対応についてご指導いただきました。アトピー性皮膚炎については、早期に発見し、外用薬を塗るなどスキンケアを行うことで重症化予防を行うことが大切であると分かりました。喘息については、特に運動誘発喘息になる子どもが増加しており、普段の様子との違いや呼吸の様子について観察し、発作が起きていると判断した時には運動を中止し、水分をとって楽な姿勢で休憩することや息苦しさがあるときには薬を飲むなどの対応を行うことが大切であることを学びました。

すべての学校・園において全教職員で確認されていることと思いますが、学校・園内での役割分担や確認体制、緊急時の対応、エピペンの使い方や保管場所など、今一度、共通理解をはかっていただきますようお願いいたします。

### アンケートより 【一部抜粋】

- ・食物アレルギーの他にもアトピー性皮膚炎、ぜんそくについても詳しく聞かせていただき、大変参考になりました。今回の話を職場へ伝えて、再確認とシミュレーションを行おうと思います。(小)
- ・様々な疾患を持つ子どもの理解が深まりました。食物アレルギーについては、症状からいつエピペンを打つ必要があるのかを考える機会があり、いざその時にあせらないようにチェックシートや体制を整えておきたいと思いました。(中)